

新シリーズ 『ピアノ音楽の楽しみ方』 (4)

” 名曲の名演奏を聴き比べながら、ピアノ音楽の歴史を学ぼう！ ”

〈第四回の内容〉 …………… 再びベートーヴェンへ ……………

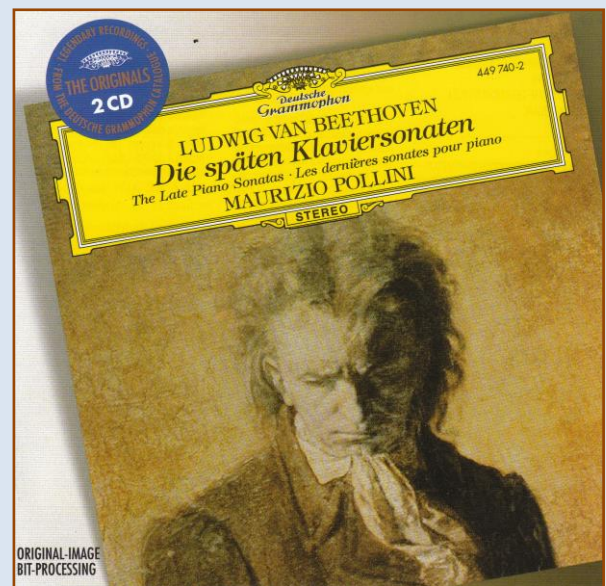
圧倒的な情熱の高揚を経て到達したフーガと変奏への浄化

ベートーヴェンは生涯を通して 32 のピアノ・ソナタを残した。(実際には更に習作時代のソナタが幾つか存在する)ハンス・フォン・ビューローは バッハの夫々24曲の「前奏曲とフーガ」から成る「平均率クラフィア曲集」全2巻を旧約聖書とし ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全 32 曲を「新約聖書」と呼んだが、これらは世界のピアノ音楽史上ひとときわ燦然と輝く偉大なる金字塔であろう。

大きく初期、中期、後期の3期に分けることが多いが、今回は中期を代表する第23番「熱情」へ短調と最後のピアノ・ソナタ第32番へ短調を取り上げてみたい。

前回試聴した通り、既に中期においてロマン派へと突入したベートーヴェンにあつて 第23番「熱情」は 第21番「ワルトシュタイン」と並んで生涯で最も気力の充実した時期における代表作であろう。今回は 1960年西側諸国で初めてその全貌が明らかになった旧ソ連の巨人リヒテルのアメリカ・デビュー盤を中心に グールド、若手のファジル・サイなどを聴き比べてみたい。

また人類の至宝とも言えるベートーヴェンが最後に到達したピアノ・ソナタ第32番では バックハウス、グールド、ミケランジェリ、グルダ、ポリニーを中心に出来るだけ多くの演奏を聴き比べながら 最晩年におけるベートーヴェンの中で一体何が起っていたのかを検証してみたい。



どうかお楽しみに！

日 時 / 4月25日(土) 9:30~12:00

場 所 / 久寺家近隣センター 多目的ホール

発表者 / 高橋 敏郎 シリーズ 全10回

参加自由・入場無料

問合わせ / 04-7184-3771 佐藤 <http://www.aafc.jp/>